

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 なごみの家 )

事業所番号	0673000519		
法人名	株式会社 互惠		
事業所名	グループホーム「ママ家」		
所在地	山形県鶴岡市常盤木字関口103番地3		
自己評価作成日	平成30年10月22日	開設年月日	平成15年 5月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1.介護職員が介護に専念できるよう、業務・調理等の業務を委託し、ゆったりと入居者と関わられる様にしています。
- 2.地域連携としてのイベントに力を入れて、地域住民とともに地域の活性化に取り組んでいます。
- 3.逐次記録システムを活用して入居者の様子を確実に記録し、それを生かした生活支援とるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 11月 16日	評価結果決定日	平成 30年 12月 4日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が安心して家庭的で快適な暮らしができるよう職員が介護に専念し看護師も常勤で体調管理に当たり、利用者・家族等の安心を確保しています。また夜間専門に3名の介護職員を置き、清掃や調理等は委託し、連携を取りながら日常の生活を支援しています。希望による外出も気軽に対応してもらい買い物やハイキングなどに出かけ楽しく過ごす姿が見られています。職員は利用者の「認められたい」「褒められたい」「お役に立ちたい」との思いを守っていくために、何が出来るか何をすればいいのかを考え、毎月個人目標を立てて振り返りながら自らも成長し、利用者と共に納得し満足してもらえる介護が出来るよう努力を続けている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の下に月次のユニット目標を立て、管理者・職員ともに実践・評価を行い、職員一人一人が理念に沿って目的意識を持って業務に当たれるように取り組んでいます。	互いに認め合い役立ち合う関係「互恵」を基本理念とし「お客様にここに」のためには何をすればいいのかをユニット毎に考え月次目標を立て、毎日のミーティングで確認しながら実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加、地区の青年部、Vrの協力を得てイベントを行っています。避難訓練は消防署・消防団の協力を得て行っています。地区のレク大会へチームで参加等など構成員としての役割を担っています。	地域行事のスポーツレクリエーションに、ママ家として利用者と職員が一緒に参加し、クリーン作戦や小学校でのサポーター養成講座に協力している。また櫛引町の敬老会にも地域の一員として招かれている。事業所主催の夏祭りには、地域の人々の参加も多くあり、賑やかな楽しい交流の場となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験学習の受け入れ、高校や、社協主催の地域高齢者への認知症サポーター講座等に講師派遣を行っています。法人として総菜宅配事業で1300食以上/月を一人暮らしの方に提供し地域貢献をしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	催事、避難訓練、事業の運営報告等で話し合いをしています。話し合いの中からサービス向上に生かせるよう取り組んでいます。	会議には地域や市関係者・家族等が参加して、コミュニティママ家と合同で行っている。利用状況や生活状況などの報告事項の他、行事への参加を呼びかけ防災訓練時の協力の依頼等も話題となっている。地域情報を得る機会としても大切な場と捉えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	気軽に相談したり受けたりする関係となっています。行政もイベントへの職員派遣を行ったりしてくれるほか連携も行っていきます。	市担当者・地域包括支援センター職員からは、運営推進会議の中で事業所の取組みについて理解をもらっている。イベントに参加・協力してもらい、代表がサポーター養成講座の講師を務めるなど、互いに連携し合いながら良好な関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束や施錠等を全く行わない介護を、日常的に実践しています。また、心理的虐待・人権侵害等の問題についても、日常的介護で気付かずに行ってしまうような事例について、日々の具体的な事例を挙げて拘束がない介護の必要性を説き実践しています。</p>	<p>身体拘束防止委員会を中心に研修会を行い、マニュアルやヒヤリ・ハット等から例題を出し、学びを深めている。利用者の認知症レベルを把握して、支援方法をユニット会議で検討しながら拘束のない暮らしを支援している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の防止チェック表による自己点検を行う事や、ユニット会議で話し合うなど虐待防止について徹底を図っています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度は、実際に利用している人もおります。財産の承継等について、家族や関係者とも必要に応じて話し合ったりしています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>相談面接の時点から不安や疑問点に答えるようにして、契約締結や解約の際にも、理解・納得頂けるように対応しています。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会が組織されています。来所時に状況の報告や要望等も伺う様にしています。</p>	<p>事業所の大きな行事である会場を借りて行う敬老会や地域の人々も集う夏祭りでは、家族会の協力が有り利用者と共に盛大に実施している。家族等の面会時には、様々な事もありのままに話し、「誰にでもお役立ちの場がある」ことに結び付けるよう対応している。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議、事業所への意向調査を行い反映できるようにしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、業務評価のほか、相談助言に対応する職員を配置しています。処遇改善加算Ⅰの対応をして職員の給与水準や色々な労働環境の改善と向上を図っています。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	相談・指導スタッフを置いて、仕事上の悩みの相談やケアの指導を行っています。また、ユニット会議では具体的なケア方法の点検など月次の目標設定も含めてスキルアップできるよう図っています。	職員研修は管理者が中心になりユニット毎に行い、また外部研修受講後は復命書により全員で共有している。各自が個別目標を立て、達成度の評価を行う取り組みを行っている。引き継ぎ時毎日話し合う事で互いにケアを振り返りスキルアップに繋げている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	鶴岡市の事業者部会、県内外の事業所の連絡協議会に参加して、事業者間の交換実習に参加したりして質の向上を図っています。	グループホーム連絡協議会等同業者との会議や交流会には、管理者・職員が参加している。研修会やレクリエーションへの参加では職員の気付きもあり、ケアの質の向上にも役立っている。交換実習の受け入れも行いネットワーク作りを進めている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談来所時の聞き取り、訪問して行う事前面談による要望や不安について傾聴し、フェースシートに記載して当初の関わりに活用し、本人の安心を確保できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談来所時や訪問して行う面談で、要望や不安を傾聴し、丁寧に説明し納得してサービス利用できるようにしています。月次報告を行うほか随時面会時にも情報提供や要望等も受けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	来所相談や訪問面談では、支援の必要性をよく把握し、当事業所で出来ることと出来ないことを説明します。その中で、サービスの選択を相談者自ら選択できるように例を挙げて説明するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活するものとして、役割活動を支援しています。また、自己の重用感を充たすだけでなく、広く認められるような場を設けるようにしています。(敬老会での功労者表彰等)		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次の状況報告や、必要に応じて電話、来所面会時に状況報告や相談したりして積極的に関わってもらえるようにしています。また、家族との絆を大切にすため、夏祭りや敬老会で交流の場を作っています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意向も踏まえながら、日時の制限をしないで自由な面会や訪問を受け入れています。美容院・床屋・医院等の利用で要望に応じて対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	随時の個々の状況に応じて、共同生活が楽しく過ごせるように、スタッフ間で話し合い配慮した支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に発生した手続きの支援や、必要とする情報提供を継続して行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや家族の情報、日常の生活の観察やアセスメントから、言葉だけにとらわれない、本人本位の本質的な希望や意向を理解できるように指導や助言を繰り返し繰り返し行なうようにしています。	毎日の暮らしの中、職員は「お客様にここに」を軸にして接し、ゆったりとした時間の流れの中で利用者の思いや希望を聞いている。聞きとった情報は共有して個別支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	色々な機会に家族、面会者から、また必要に応じて担当ケアマネージャー等から情報収集をし、利用者の意向の把握や行動の理解、入所経緯の把握に努め個別的に満足度向上を図るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コンピュータによる個別の逐次記録をし状態把握をします。それをもとにして、毎日のミーティングや情報の共有化を図るようにしています。そのほか、特に排泄や食事・水分摂取などの状況は別途記録して把握に努めるようにしています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の本質的なニーズを踏まえて、ケース担当者を中心に検討を行い、必要により本人・家族・看護師を入れて作成するようにしています。状況変化があれば、関係職種と協議し計画を変更するほか、その内容を具体的に指示するようにしています。	介護計画作成時は、担当者が評価したものをミーティングで職員の意見を聞き家族等の意向も入れ計画立案している。ユニット会議に図り、その人の状況により何が必要かを考慮し、満足感が得られるよう本人に寄り添ったプラン作りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者がケア目標を設定し、それに必要な観察や結果としてとしての気づきや工夫ができるよう、管理者は職員の教育育成を行うほか、生活記録の報告書提出時や必要と思われるときに指導助言、評価を行うようにしています。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民や商業施設から理解・協力を得て、施設外へ積極的に出て行き、買い物や地域のスポーツ施設の利用、観光農園の利用などを支援し、今までの生活の継続や利用者の生活が豊かになるようにしています。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望を尊重した上で、緊急時の体制や家族の協力の可能性を検討し、医療機関の選定を行っています。協力医療機関の外にかかりつけ医の支援も合わせて行えるようにしています。	医療連携がスムーズに図れるようほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医として職員同行で通院している。毎日健康状態のチェックを行い、体調変化や緊急時は医師・看護師と連携して適切な受診に繋げ、結果は家族等に連絡し共有している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は随時・定時のバイタルチェックや観察で気付いたことを、看護師に伝え相談しています。管理者は看護師と情報交換して健康状態の把握に努め、個々の利用者の健康管理や適切な受診や看護が受けられるようにしています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院医療機関に対しては施設での情報を提供するほか、協力医の支援を受けて、病院関係者との情報交換や家族との話し合いを随時行い入退院がスムーズにできるようにしています。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所相談時に家族の意向を伺い、事業所の方針を説明しています。また、重度化した場合や終末期の施設サービス提供の限界を示した上で、管理者は協力医・看護師・家族との話し合いにより方針を決定し、文書として作成しお互いに確認できるようにしています。</p>	<p>入居時に事業所方針を説明し本人・家族等の理解を得ている。重度化の段階に応じ本人・家族等の意向を尊重しながら看護師を中心に介護を行い、終末期には家族等の協力が得られれば医療連携のもと看取りケアを行っている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応方法を記載して掲示しています。初期対応ができるように各場面に応じての指導助言を繰り返して行うほか、防災訓練とあわせて救急救命措置の講習会やAEDの講習会を開催しています。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難誘導訓練を行うほか、近隣住民の協力が得られるよう、地区の消防団員を避難訓練に参加してもらうようにしています。また、地域の総会に参加し協力依頼や運営推進会議においても協力を呼びかけています。</p>	<p>年2回の総合防災訓練や事業所個別の避難訓練、自主検査チェック表を用いた点検等を通して初動の大切さを学び、避難ルートや員数の確認など罹災時の対応がスムーズに出来るようにしている。地域とは地区住民や消防団員の参加などで協力関係を築いている。</p>	<p>近年想定外の災害が多く発生しており、ハザードマップの被災区域外となっているが水害や地震等の広域災害時の情報収集や避難等に備え防災マニュアル整備に期待したい。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>管理者は日常の具体的事例を挙げて、利用者への会話のあり方や応接の仕方について指導するほか、人権尊重の必要性や、係り方を話し合い、人格尊重やプライバシー尊重が大切であることを説明しています。</p>	<p>育った環境や生活歴により利用者一人ひとりの違いを理解し、その人の意思を尊重しながらケアに取り組んでいる。プライバシーを確保し不快になることなくいかに満足してもらえるかを常に考えている。</p>		
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ゆっくり関わる機会を設けています。また、「傾聴」の姿勢を常に念頭においき介護を行い、利用者の思いを引き出し、意志の表出が難しい利用者も考慮に入れて能力に応じた自己決定を促すよう支援しています。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など基本的な日課については、本人のペースを尊重しながら、個別的に時間の調整を行いサービス提供しています。役割活動やレク活動を本人の希望や趣味も取り入れ、個別的な支援にも対応しています。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好きな服を着られるように支援したり、理髪や毛染め、化粧品の使用など本人の希望に沿った支援をしています。また、髭剃りや着衣の汚れのや着方にも気を配り、その人の能力に応じて、促したり手直しを支援したりしています。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜取りや畑の作物を収穫し、下処理や漬物にしたりすることで、季節を感じたり思い出話をしたりで喜びを感じたり、皿や盛り付けに工夫して目でも楽しめるようにしています。能力に応じて食事の準備・配膳・後始末の家事もしてもらっています。	「食」へのこだわりを持ちながら法人運営キッチンホットママ家からのおかず配食で賄い、季節により山菜や畑からの収穫野菜などを添え喜ばれている。利用者から手伝いをしてもらいながら満足感に繋がる食事が出来るように取り組んでいる。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握を行い、嚥下力や咀嚼能力・好みに応じて、食事形態や支援の方法を工夫し、必要に応じて特殊栄養食の提供やゼリー・粉寒天なども活用し栄養摂取や水分確保の支援に努めています。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨・うがいを促すほか、食後に口腔の衛生や状態を観察するようにして把握し口腔ケアを行なっています。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	極力オムツを使わない方針で、トイレ排泄をできるように一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに応じた排泄の支援を行うようにしています。	排泄パターンを把握し、一人ひとりの羞恥心に配慮した適切な声がけやさりげない誘導でトイレでの自立を支援している。失敗時も自尊心を損ねることなく、また夜間帯にもすばやく対応することで排泄の自立に繋げている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を全スタッフが共有し、食事の工夫や水分摂取、運動などのバランスを取りながら予防や解消に取り組んでいます。また、個々の状況を把握するため記録し、看護師と連携を取りながら必要な対応をとっています。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望を取り入れて、入浴しないことも含めて、工夫して対応しています。また、要望や必要により毎日の入浴や原則的には隔日の入浴実施となるようにしています。	利用者の希望を取り入れ、また嫌がる方にも押し付けることなく隔日の入浴が出来るよう取り組んでいる。転倒など無いように安全に配慮し、その日の体調や気分を汲み取り心身ともにリフレッシュ出来るようにしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	愛用の物を居室内に持ち込み、個々の生活習慣を継続できるように配慮し、空調や採光にも配慮して環境を整備しています。また、個々の生活ペースを尊重して、自由に休息が取れるように支援しています。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の服薬の目的や副作用等を理解できるように書類を整備し、利用者の毎日の状態把握と情報交換を行い、必要に応じて看護師への報告・相談を行うなどにより適切に対応出来るよう努めています。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常生活の様子から個々のできる事を把握し、役割活動やレク活動に活かしています。特に毎年の敬老会のイベントの式典で、功労者表彰を行い感謝の意を表すほか、皆の励みになるようにしています。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な介護業務を担当しない職員を配置することで臨機応変に対応できるようにしており、個別的にも戸外に出かけられるよう支援しています。また、介護職員も個々の戸外での活動を支援しています。	ふだんから天気の良い日には事業所周辺の散歩を行い気分転換を図り、外気に触れる機会を作っている。法人合同の敬老会や夏祭りでは家族や仲間と過ごし笑顔となり、楽しみ喜ぶ姿が見られる。運転等の業務をする職員がいる事で個別の外出やバスハイクなど臨機応変に出来る体制をとっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には現金を所持してもらい、菓子類や嗜好品の購入が自由にできるように支援しています。外出の機会には、買い物を自由に行えるように、現金を管理して頂いています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員の支援を受けて自由に使えるようにしています。手紙のやり取りは利用者の希望に応じて、年賀状作成では職員の働きかけを行い、必要に応じて代筆などの支援も行っています。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光・空調、家具や調度品を生活感に配慮したものに、室内内外の装飾も季節感を取り入れ居心地の良い環境となるよう努めています。	四季折々の飾り付けでコンパクトな空間のなかでも季節が感じられる。利用者同士の間で職員が入って関わることで親近感が得られコミュニケーションを取りやすいリビングとなっている。毎日の清掃で清潔感を保ち、インフルエンザや感染症対策にも万全を期している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、居室、中庭、玄関等を活用し、利用者が自分のペースを守りながらゆったりと生活できるよう支援しています。また、近接事業所とも連携して自由に行き来できるようにしています。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、本人の馴染みの物を持ち込んで生活しています。写真や作品などを掲示して季節の花の鉢植えや装飾を施して、親しみのある環境づくりに配慮しています。	たんすなど使い慣れた物を置き、写真や花などを飾りながら利用者が安心して寝起きし、寛げるようにしている。夜勤者からすべての居室が見渡せ見守りにより安全な暮らしを支えている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体をバリアフリーにして、必要な箇所に手摺を設置するほか、転倒リスクが高い方には離床センサーを活用して、自立度を高めながら安全性を高める工夫をしています。			